

漢法苞徳塾資料	No. 049
区分	辨証
タイトル	基底的な意味がある五臓辨証
著者	八木素萌
作成日	1992.06

◆基底的な意味がある五臓辨証

陰陽・表裏・虚実・寒熱と五臓分類とが基底的に重要である。特に人身の生理病理的なものは、シンボリックに、一群の生理病理的現象や機能を五行論的な集合として集約して考察するという、漢法医学の際立った特徴を考慮し、また、経脈も陰陽五行論的に所属させている点を考慮すれば、病証の把握を、五行・五臓に集約することは、臨床の必要にも合っており、有用なものとなっている。その意味で、漢法医術における各種の診察方法から、五臓的な辨証に、便利な方法を駆使して、陰陽五行論的に治療を組み立てる①事は、初歩的であるが、基底的なものであるから、極めて重要となっている。

a. 五臓弁別の診察法には、

- 〔い〕 八虚診②は、邪のある五臓を把握する方法、
- 〔ろ〕 腹診では、『難経』腹診③は五臓弁別を主としている、
- 〔は〕 脈診では、菽法④と脈状とが五臓弁別の方法である、
- 〔に〕 背中の五臓の腧穴、つまり、背腧穴には、内傷性の反応・体質性の反応・陰性の反応⑤・季節性の反応⑥・などが表現されている。

つまり、これらは五臓の反応の範疇であるが、総合して運用される。

b. 病因を把握するのは、

1. 尺皮診

尺皮の色調と状態をもとに判断する（尺皮診表を運用）

2. 募穴腧穴診

募穴は五臓の外邪性・比較的に新しい反応・陽性の反応を見せる傾向があり、腧穴は内傷性・体質性・慢性・季節的影響の反応・ライフスタイル性反応・陰性の反応などの五行・五臓的性質を見せる傾向がある。腧穴反応は脊柱棘間部の反応と極めて密接である。色調・形態・温度・手触り（滑・濡・隆起・陥没・有力・無力など）・圧痛反応などによって判断する。

3. 切経診……

4. 脈状診……

5. 腹診……臍傍診（小田・入江法）

6. 舌診……

7. 蒙色診……

等となろう。

〔い〕 反応が示している意味は多層的である。従って、その生理的・病理的な意味は、全身の反応を「解析・推理・演繹・対比・総合などを行なって」論理的に医学的な加工をする、こうして判明できる。

〔ろ〕 診察情報を医学理論に基づいて論理的に加工するのは、各種の『辨証理論』『病証論』『臓象理論』を用いて行なう。

〔は〕 腹診や脈診などの種々の診察法には、伝統的に精練されてきた手技・手法があるので、これらを、各種に診察法に関する理論と共に、研修する。その成果を診察の際に用いるものである。

〔に〕 生理的・病理的な体表に表現される反応や、全身的に出現する症候の多層性を、正確に把握する為には、人身の全面と病候の全体を立体的に観察する事が必要である。体成分としては「衛・気・榮・血」を主とし、部位論的には「前・後」「腹・背」「左・右」「頭・体幹・四肢」「上・中・下」、機能的には「皮毛腠理・血脈・肌肉・筋・骨」「関節・筋膜・腱・軟骨・腱板・関節包・骨膜・骨髓などの〈機能組織学〉的な側面」、また